

くすりと健康のはなし

薬包紙やくほうし

第119回

一般社団法人岐阜県薬剤師会
理事 林 秀樹

「薬の研究」と聞くとどのようなことを想像されますか？ 多くの方は、新薬の開発をイメージされるかもしれませんが。実際に世界中の製薬会社などで新薬の開発が試みられています。薬の候補物質が植物や微生物などから見いだされ、あるいは新たに合成され、新薬となるには、数百億円のコストと十数年の年月を要します。そして、新薬開発の成功率はわずか25000分の1とも言われています。

新薬の候補は、細胞実験や動物実験などで有効性や安全性が十分に検討されたのちに、ヒトでの安全性や有効性に関する臨床試験（治験）が行われ、国の審査を受けて新薬として上市されます。治験では、患者さんに目的や安全性等を十分に説明し、同意をいただいたのちにご協力いただきます。私たち薬剤師は、患者さんの人権に十分な配慮をしつつ、このような治験を実施するための治験コーディネーターとして働くこともあります。

「薬の研究」は、新薬の開発だけではなく、薬局や病院で働く薬

新薬開発だけではない、「薬の研究」

剤師は、薬の飲み方を改善したり、副作用を最小限にしたり、患者さんの生活の質を高めるなどの目的で、いろいろな臨床研究を行っています。研究方法は様々で、カルテや処方箋の情報を利用したり、アンケートをお願いしたり、少量の血液をいただいで特別な検査を行うような研究もあります。このような研究は、患者さんの権利を守るため臨床研究法という法律を順守して行います。また、患者さんに十分な説明をして同意を頂いたのちに実施します。薬剤師が行う臨床研究は、患者さんのご協力なしには成り立ちません。

私たち薬剤師や医師など医療従事者が行う臨床研究は、直ちに現在の患者さんの利益になるとは限りませんが、近い将来、同じような病気の患者さんの利益になることを目指して行っております。もし、薬局や病院で臨床研究への協力を頼まれたら、ご不明なことがあれば、担当薬剤師に何なりとお尋ねください。お断りいただいても、今後の治療には何ら不利益はありません。ご理解ご協力いただけますと幸いです。